

授業 科目名	【G】	法学入門	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2	
	【H】	法学入門			【H】1		【H】2	
	【I】	法学入門			【I】1		【I】2	
科目区分	専門科目:【G・H・I】教科及び教科の指導法に関する科目(中社・一・公民・一)							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独	【G】 教員の免許状取得のための(中社必修・一・公民必修・一)科目 【H】 教員の免許状取得のための(中社必修・一・公民必修・一)科目 【I】 教員の免許状取得のための(中社必修・一・公民必修・一)科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項:「法律学、政治学」(中一種免社会)、 「法律学(国際法を含む。)政治学(国際政治を含む。)」(高一種免公民)							
サブ タイトル	法学の基礎を学ぶ			担当者	今井 康介 伊禮 誠汰			
授業概要	【概要】	この授業は、これから法学部生として専門教育科目を学んでいくために必要な基礎的知識を身につけるための講義です。皆さんたちにとって身近な話題も素材としながら講義を進めていきます。						
	【到達目標】	① 法学に興味を持つこと、② 学習に必要な基礎的知識を身につけること、③ 授業の内容を整理しながら、自らの知識として身につくようにすること、④ 復習することによって知識を定着させる学習習慣を身につけることを最低限の目標とします。						
履修条件	特になし。ただし、新入生は学期始めのガイダンス時に指定されたクラスで受講して下さい。再履修の場合、受講者数との関係上、受講できない場合があります。							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【○】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との 関連性	他のすべての法律系科目の基礎となる科目です。							
教科書	『ポケット六法』有斐閣							
参考書	たとえば、田中成明『法学入門』有斐閣、五十嵐清『法学入門』日本評論社、堀口悟郎ほか『図録法学入門』弘文堂、三上威彦『法を学ぼう』信山社、原田大樹『現代実定法入門』弘文堂、宮川基『高校の教科書で学ぶ法学入門』ミネルヴァ書房、神野潔ほか『法学概説』弘文堂、村中洋介『嫌にならない法学入門』信山社、池田真朗ほか『法の世界へ』有斐閣、松井茂記ほか『はじめての法律学』有斐閣、副田隆重ほか『ライフステージと法』有斐閣、川崎政司『新・法律学の基礎技法Ⅰ・Ⅱ』弘文堂、松嶋隆弘ほか『スタンダード法学』芦書房、西田真之『法のカタチから考える法学の基礎』ミネルヴァ書房、神野潔ほか『教養憲法』弘文堂、斎藤一久『図録日本国憲法』弘文堂、初宿正典ほか『いちばんやさしい憲法入門』有斐閣、『民法Visual Materials』有斐閣、『目で見る憲法』有斐閣など。							
評価方法	到達度確認試験(複数回実施)100%。授業回数の1/3を超えて欠席した場合、評価することはできません。ただし、担当教員により評価方法が異なる場合があります。初回授業で必ず確認をしてください。							
フィードバック 方法	到達度確認試験を行った次の回(第15回の際にはその回)に、解答すべきポイントと模範解答を開示し、問題の解説を行います。							
評価基準	到達度確認試験において、講義内容を十分に理解したと認められる答案にはA評価、そのうち特に優れたものをS評価、講義内容を網羅的に理解したと認められる答案にはB評価、講義内容を一通り理解したと認められる答案にはC評価、講義内容の理解が劣るものについては、その程度に応じてDまたはE評価とします。① 出席回数が2/3未満、② 試験すべてに欠席など、評価不能の場合には、F評価とします。							

授業 科目名	【G】	法学入門	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
	【H】	法学入門			【H】1		【H】2
	【I】	法学入門	必修		【I】1		【I】2
授業回数	授業内容						
1	開講にあたって:受講と学修の方法、教室のルール						
	予習: シラバス(本ページ)の熟読			復習: 講義内容のノートの整理と確認			
2	法学の特徴						
	予習: 法学の特徴に関する項目を図書館等で調べる。			復習: 法学の特徴についてノートの整理と確認			
3	法の分類						
	予習: 法の分類に関する項目を図書館等で調べる。			復習: 法の分類についてノートの整理と確認			
4	法とは何か						
	予習: 法とは何かに関する項目を図書館等で調べる。			復習: 法とは何かについてノートの整理と確認			
5	法と道徳						
	予習: 法と道徳に関する項目を図書館等で調べる。			復習: 法と道徳についてノートの整理と確認			
6	法の歴史						
	予習: 法の歴史に関する項目を図書館等で調べる。			復習: 法の歴史についてノートの整理と確認			
7	法の存在形式						
	予習: 法の存在形式に関する項目を図書館等で調べる。			復習: 法の存在形式についてノートの整理と確認			
8	中間まとめ・到達度確認						
	予習: 第7回までのノート等を復習する。			復習: 到達度確認で不明であった部分について復習する。			
9	法的責任						
	予習: 法的責任に関する項目を図書館等で調べる。			復習: 法的責任についてノートの整理と確認			
10	司法の役割						
	予習: 司法の役割に関する項目を図書館等で調べる。			復習: 司法の役割についてノートの整理と確認			
11	裁判所						
	予習: 裁判所に関する項目を図書館等で調べる。			復習: 裁判所についてノートの整理と確認			
12	判例の読み方						
	予習: 判例の読み方に関する項目を図書館等で調べる。			復習: 判例の読み方についてノートの整理と確認			
13	法の解釈						
	予習: 法の解釈に関する項目を図書館等で調べる。			復習: 法の解釈についてノートの整理と確認			
14	法の適用						
	予習: 法の適用に関する項目を図書館等で調べる。			復習: 法の適用についてノートの整理と確認			
15	総まとめ・到達度確認						
	予習: 第14回までのノート等を復習する。			復習: 到達度確認で不明であった点について復習する。			
その他	初回講義で説明するように、担当者によって講義の重点や進め方が異なることがあります。オンライン授業を含め、授業の受け方を初回授業で確認してください。また、遅刻や欠席をするとその回の内容が抜け落ちてしまうなど自分自身にとって非常に不利となりますので、毎回しっかりと授業に参加してください。 授業ごとの予習・復習時間は、各120分程度を目安としてください。						